

# 播但連絡道路の大規模修繕等に関する有識者会議（第2回会議）

## 議事概要

1. 日時 令和元年10月8日（火）13:00～16:30
2. 視察箇所 播但連絡道路（第2高架橋、市川大橋、落ヶ池橋）
3. 出席者

### [委員]（◎は会長）

こいけ あつし 小池 淳司	神戸大学大学院工学研究科 教授
◎さたけ たかゆき ◎佐竹 隆幸	関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科 教授
はらだ まりこ 原田 真理子	姫路商工会議所女性会 会長
もりかわ ひでのり 森川 英典	神戸大学大学院工学研究科 教授

### [アドバイザー]

いそべ りょうた 磯部 良太	国土交通省 近畿地方整備局 姫路河川国道事務所長 （代理出席者：同副所長 おした よしはる 尾下 嘉春）
まつもと たかし 松本 崇	西日本高速道路株式会社 関西支社 総務企画部 企画調整課長

※敬称略、五十音順

## 4. 議事概要

### 〈委員等からの主な意見〉

- ・ 過去の事例から床版内部に水平クラックが見られるが、下から見ても見えないところで、ひび割れが進展してしまうのは致命的で、対策としては床版取替しかない。このようになる前に、橋梁をできるだけ予防的に処置をしていくことが極めて重要だ。
- ・ Ⅲ判定を消すためだけの、コストをあまりかけない、場当たりの修繕をするのではなくて、それなりのコストを投じて、予防的、抜本的な修繕を考えないと、非常に厳しいことになってしまう。
- ・ 水を止める処置、これをいかに早くするか。橋面防水や非排水型伸縮装置への取替えを徹底してやる必要がある。
- ・ 乾燥収縮ひび割れと思われるものも、けっこう入っている。元々の材料に起因するひび割れと思われる。
- ・ 乾燥収縮量の確認のため、骨材の吸水率は十分にチェックしていただきたい。
- ・ 事前に対応していれば、こうまでならなかった可能性が排除できない。
- ・ 色々な制約の中で、場当たりにやってきたツケが、回ってきている。
- ・ 料金を公平、公正に徴収することと、費用をいくらかけるかというのは、まったく別の議論で、そこを認識しないとイケない。とかく費用を賄うための料金と考えると、全ての辻褄が合わなくなる。
- ・ 公共財というのは、永遠に続かなければいけない。これが絶対的な条件である。費用と負担の関係を十分認識して、どういう戦略を立てるかを考えてもらいたい。
- ・ 普段、当たり前のように利用している道路に、深刻な問題が陰で潜んでいたんだなということを実感した。
- ・ ここまで放っておいたのかな、という感じをもった反面、調査等の地道な作業をされているとも感じた。
- ・ 早急に、修繕をしていくべきだと感じた。
- ・ 5年で1周した点検がきっちりされ、それぞれ分析されているという印象を持った。
- ・ しっかりと費用を見積もって、将来にわたって道路を使っていけるよう、長期的な視点で考えていかないといけない。
- ・ Ⅲ判定については、5年以内に対策をしないとイケないということで、早期に財源の確保が必要であると思う。
- ・ 対策の工法については、適切な対策工法と感じた。
- ・ 公共財というのは、公共性と事業性と革新性のバランスが必要。
- ・ 事業性と公共性の根拠、バランスの中で、根本的に考えないとイケない。予想以上にひどいと感じた。
- ・ 恒常的に毎年維持していく費用というのを賄っていかないといけないという事業性・採算性の議論と、公共性としての公共の利益という行政が一番重要な視点からすると、対処療法的なことをしていると、最終的にはより多くの予算がかかる。大規模な更新が必要。